

## 平成23年度 第3学期始業式あいさつ

あけましておめでとうございます。

昨年、私たちは、誰しもが忘れられない東日本大震災を体験し、期せずして、外国メディアの報道やブータン国王の国会演説などを通じて、日本という国が宿してきた、人と人との絆を大切にする生き方、時に猛威をふるう自然の中で共生する生き方、どんな時でも冷静で結束を重んじる高邁な精神をあらためて発見することができました。

その上に立って今年は、新しい日本をつくりあげる歩みと努力を一人ひとりが始める年になります。この新しい年を迎えるに当たり、年末から年始にかけて、私たちの励みになる素晴らしい出来事やニュースがあります。

一つは、12月21日にお招きして特別授業をしていただいた東京理科大学の藤嶋昭学長からお手紙をいただきました。読んでみます。

「昨日は、武蔵丘高校の生徒の皆様にも、楽しくお話をさせていただくことができ、小生も大変幸せでした。沢山の質問、しかもすばらしい内容の質問でした。今後の生徒の皆様の発展が楽しみです。ありがとうございました」というお手紙です。

藤嶋学長は、前にも紹介したように光触媒の研究で、ノーベル賞に最も近い日本人といわれる方です。研究に関するお話もすごかったけど、なんて素晴らしい先生と私たちは出会うことができたのかと、つくづく思います。この手紙が届いたのは2学期の終業式の後でしたが、先生がこれを書かれたのは特別授業の翌日の12月22日です。

本来はこちらから、まずお礼状をお届けするのが筋です。もちろんすぐ書いてお送りしましたが、それが届く前に、御礼を申しあげるべき我々に、楽しく幸せだったと書いて送ってくださった。しかも筆を使っただけで、心のこもった直筆です。

狭い専門分野だけに秀でるのではなく、富士山のように裾野の広い、人としてバランスのとれた人になる、まさにそのお手本となる先生です。本当に素晴らしい研究者は、素晴らしい人格をも持ち合わせているんですね。

また、よく「大事なことは言葉や文字じゃなくて心だ」と言う方います。私も若い頃はそう思っていたし、確かに心のない言葉や文字は相手に伝わらない。しかし、心があっても相手に伝えようとしなくては伝わらない。しかもタイミングも大事だ。自分の「心からの思い」それがきちんと伝わるように、古の人々はお世話になった時には「お礼状を送る」という習わしを作り残してくれた。心からの思いを言葉や文章にできる、日々の勉強の大事な目的はそこにも、いやそこにこそあると言える。それを藤嶋先生は教えてくださったように思います。

しかし、特別授業を真剣に聞く君たちの姿がなかったら、あのお手紙はいただけなかったと思います。みんなが頂戴した勲章です。藤嶋先生は、常に身の回りのことに強い関心と興味を持っていてこうもおっしゃっていました。これからの日本の未来を見据えたとき、一番大切な姿勢です。肝に命じて大切な経験にしていきましょう。

二つに、君たちの仲間の奮闘ぶりについて紹介します。年が明けたばかりの1月4日、ソフトテニス部が、墨田区総合体育館で開催された東京インドア大会に36年ぶりに出場を果たしました。初戦の日本橋女学院との試合、残念ながら3試合中、始めの2試合を奪われて負けてしまった。

でも、第一試合、最初に3セットとられながら、2セットを取り返し、第二試合も、同じく最初に3セットとられながら3セット取り返し、ギリギリのところまで追い詰めた。あの諦めずに食らいついていく姿勢は見事でした。

今朝、聞いたところ、力を出し切れなかったと言っていました。世の中、うまくいくことなんてそうはない。やってもやっても結果が出ない。それに比べて、他人はずっとうまく行っているように見えて仕方がない。自分にはうまく行っていない、負けているという実感しか残らない時さえある。それが世の常かもしれません。そういう中でも、諦めずに頑張り続ける人に成功が訪れる。この冬、3年生は受験に向けて猛勉強した。2年生、1年生も補講や部活、そして部活ごとの勉強会にチャレンジした。また硬式テニス2年の山田さんは、都立高校戦で第5位に入賞する活躍を見せました。そういう一人ひとりの地道な努力が寄り集まって、未来を創る力になると確信します。

そして1月5日と6日の両日には、府中芸術劇場で、吹奏楽のアンサンブルコンテストが行われ、本校の吹奏楽部から木管と打楽器の七重奏、金管の八重奏が初めて出場を果たし、いずれも銀賞を受賞しました。40名、50名で演奏することも難しいが、少人数での演奏には、一人ひとりのより高い技量と互いにしっかりと合わせて演奏しようという強い意思が求められます。演奏が始まる前までは、胸は破裂しそうだったに違いありません。よくぞチャレンジした。未知のことにチャレンジするからこそ、やり終わったときのやった！という最高の達成感と感動が得られるんです。

音楽の力はすごい。アンサンブルのハーモニーは、互いの絆を強めること抜きには、自分の演奏だけに心を奪われ、自分だけよければいいという利己の世界に閉じこもっては決してよくありません。そしてさらなる高みを目指して学び、練習し続けることなしには最高のハーモニーは生まれません。その音楽を作る営みの中で、時にはぶつかりながら、思いのすれ違いも体験しながら、かけがえのない絆が生まれ、強さを増していきます。

東京藝術大学の教授だった小泉文夫先生は、生前こうおっしゃっていました。「素晴らしいコミュニティには、素晴らしい音楽や芸能が生まれる。その音楽や芸能がさらに素晴らしいコミュニティを育てる」もうすぐ行われる合唱祭で、1、2年生にどんな音が、どんな絆が生まれるのか、生み出せるのか楽しみにしています。

結びに、1月7日に新聞報道された都立高校入学選抜の中学生の第一志望調査の結果をご披露します。男子が1.60倍、女子が2.08倍でした。過去3年間をとってみると、男子が1.20、1.43、1.60倍、女子が1.61、1.70、2.08倍、毎年第一志望の人が1倍を超え、男女いずれも増え続けているのは、都立普通科の109校の中で、本校を含めてたった4校しかありません。多くの受検生がこの武蔵丘を第一志望にあげてくれたことは、先生方の努力、そして何より君たちの努力があつてのことです。そのことを心から誇りに思います。

これからの日本を考えると、そこに生きる君たちの未来を想うとき、武蔵丘が掲げる「友との絆」「利他の志」、そして「大学進学への道」に込めた、より高みを目指して学ぼう、学び続けようという姿勢ほど大事なものは無い。

いよいよ1年間の締めくくりの3学期です。3年生は、これまでに培ってきた互いの絆を支えるに、最後の最後まで粘って勝利をつかんで欲しい。その3年生に続いて、2年生と1年生は、新入生の期待に応えられるよう、新しい道をしっかりと踏み固めて行って欲しいと思います。これまでよりずっとずっといい年にしましょう。

以上で新年の挨拶を終わります。